

尾三地区ミニバスケットボール連盟 指導者心得

1. ミニバスケットボールの指導における基本的な考え方

暴力行為の根絶に向けて

私たちは、ミニバスケットボールの活動を通して、日本におけるミニバスケットボールの健全な普及発展を図るとともに技術の向上と、指導者の資質の向上を図ることを目的としております。とりもなおさず、子ども達の健全育成がその根幹にあります。

ミニバスケットボールの「友情、ほほえみ、フェアプレイ」の精神は子どもに対してのみ要求されるものではなく、指導者に対しても要求されるものであります。

しかしながら、大変残念なことに、ほんの一部の理解の足りない指導者の暴力行為の存在を確認いたしました。

ミニバスケットボールの活動において、指導者の子どもに対する暴力行為（言葉を含む）が行われることは許されません。例え、その行為が、保護者の同意があったとか、指導者の独りよがりの指導論等で行われたとしても許されるものではありません。ましてや勝敗やプレイの不出来による指導者の激高から行われた場合は言語道断です。勝利至上主義に偏った指導者ほど、その傾向があるとの報告も心配されるところです。

ほんの一握りの指導者の誤った指導方法や言動が、人々に不信や誤解を招くことを考えるならば、単にチームや、指導者個人の問題ではなく、健全育成を目指し努力しているミニバスケットボール界全体に対する大きな問題ととらえます。

児童の人権擁護や、褒められて育てる観点からも、暴力行為は絶対にあってはならないことです。

各チームの運営におきましては、一人の指導者の独善とならないように、①複数の指導者で子ども達の育成にあたる。②保護者に練習の様子などを見てもらい、常に複数の目で子ども達を守る。③問題があった場合には、チーム内で話し合い、また地区や都道府県のミニ連盟に指導を仰ぐ。など環境整備を行い信頼される組織であることが大切です。

最後に、ミニバスケットボールの指導について基本的な考え方を以下のようにまとめてみました。

- ① 指導者は、プレイヤーの一人一人を技術や体力面のみならず精神面や情緒面も含めて全面的に育てなければならない。子どもを傷つける言動は絶対に許されないものである。
- ② 指導者は、参加する子ども達を公平に見てやらなければならない。
- ③ 指導者は、チームのメンバー一人一人が持っている良さを発掘し、それを十分に生かす義務がある。
- ④ ゲームに勝つことは、指導者にとってもプレイヤーにとっても大きな願いであるが、単に結果だけを重視するのではなく、ねらいやその練習過程を重視した指導が必要である。
- ⑤ 指導者は、子ども達に意欲を持って学習させるために、良いプレイをしたときに大いに賞賛することである。
- ⑥ 練習は、明瞭な目標を持って行うことと、ゲームの局面に近い練習を行うこと、そして、参加者全員が効果的かつ平等に練習できるよう工夫すること。
- ⑦ 基礎となる考え方やスキルはミニバスケットボールでも適切に指導していかななければならない。基礎的な動き（ボディコントロール、ボールコントロール等）や俊敏性の体得については、楽し

く学ばせると将来の成長が一層促進される。

- ⑧ 指導者は、子どものコート上のケガの防止に万全を期するだけでなく、情緒面、精神面な安定の配慮や日常生活態度についても配慮しなければならない。
- ⑨ 指導者は、子どもに友情、ほほえみ、フェアプレイの精神をしっかりと学ばせさせなければならない。

2. 日本ミニバスケットボール連盟の基本確認

ミニバスケットボール競技規則の「まえがき」「あとがき」にミニバスケットボールの願いを述べております。競技規則は憲法的性格です。

「まえがき」には、願いは“友情”、“ほほえみ”、“フェアプレイの精神”によって行われることにあると述べております。競技の約束ごとを知ってもらい、スポーツするよろこびや楽しさを知ってほしいとの願いです。競技規則としてのまえがきの性格から競技の約束ごと(規則)の文言が入っていますが、“友情”、“ほほえみ”、“フェアプレイの精神”はミニバスケットボールの基本となります。

ミニバスケットボールが楽しい活動で、子ども達が進んで参加し協力と励まし合う多くの仲間がいて、約束ごとを守って競いあい楽しく満足感があるならば子どもは生き生きとしてスポーツそのものを楽しむことを実感します。

「あとがき」にはミニバスケットボールは子ども達にとって面白いもの、楽しいものであると述べ、将来はバスケットボールをしてみたいという気持ちになってくれればと念じ、たとえ他の種目にいくことがあってもスポーツをする喜びを感じてもらいたいものです。

ゲームは基本的な規則にはしたがって行われますが、規則をあまり厳しく適用しすぎて子ども達を押しつけてしまうことでは、子ども達はゲームを楽しむことができません。罰則を恐れて規則を守るのではなく、規則を守って正しい技術を身につける方向に指導しなければなりません。

ゲームの勝ち負けはスポーツにおいて魅力があるのは当然で何ら否定することではありません。しかし、「何が何でも勝つ」という考え方を子ども達に教え込んではいけないと述べていますがこのことが子どもではなく指導者そのものが「何が何でも勝つ」という気持ちで子ども達の指導をしていないのでしょうか。そのための移籍などは当然認められません。指導者の言われたとおりの練習をすることにより子ども時代は一定の成果が出ますが、大きくなって伸びなくなる話は人ごとではありません。自主性・自発性をもち、考える力をつけることこそが今大切なのです。「勝ち負け」が子ども達の評価でなく、指導者の評価としてみていないか。成長期の子どもが勝つために過剰な練習量や過重な負荷を求められすぎているかと心配されるところです。

日本のミニバスケットボール規則書の元になった FIBA ミニバスケットボールの序文は声明文となっており、以下のように述べています。

- ミニバスケットボールは
 - 子ども達の長い人生に対して道を開き、子ども達にバスケットボールを紹介するための豊かさで楽しいものです。
 - 子ども達の身体的・知的・情緒的・社会的発達のための機会を与えるという健全な教育原理に基づいています。

- 子ども達が競争という経験の重要さは認めています。競争はどのようなゲームにおいても競争そのものは大きな魅力の一つですが、勝利だけが主要な目的では決してありません。むしろ、各々の選手の才能と技術のレベルを向上させるための機会を持つことであると言うことを強調すべきなのです。
- 友情(friendship)、楽しさ(enjoyment)、フェアプレイ(fairplay)の精神、そして全ての参加者（他の選手、コーチ、試合運営者、両親）に敬意を表する気持ちを育てます。

● コーチと指導者について

- ミニバスケットボールの全てのコーチと指導者は、ミニバスケットボールの原理と精神を尊重し、理解し認めるべきである。子ども達との活動のための専門的知識を発展させるべきである。それは、責任であり、自分にとっても楽しく価値のある経験でもある。身体的、精神的変化を考慮しながら、子ども達個人の適正や技術の上達のための手伝いをするのが発達段階の子どもをサポートすることになる。子ども達を第一として、積極的に考えることが、子ども達の生活に満足感と達成感をもたらすことができる。このことが正しい環境を生み出すことになる。勝利以前に、努力、進歩、チームワークを重視しフェアプレイの精神、スポーツマンらしい振る舞いができるよう指導する。そして、子ども達の必要性にあったルールと施設を準備することにより、一層可能性を広げることとなる。各国の協会と組織はコーチと指導者の上記の良き態度と振る舞いを奨励することがもっとも良いことであり、コーチと指導者はしかるべき会議以外で非難中傷すべきでない。

最後に、日本ミニバスケットボール連盟会長で、広島県ミニバスケットボール連盟名誉会長でもある金子 剛氏の「ミニバスケットボールの指導者心得（平成18年）」を記載します。

1. ミニバスケットボールは教育スポーツである。

競技規則（ルールブック）のまえがきに、「友情」「ほほえみ」「フェアプレイ」の精神によってゲームを行うとあり、あとがきに、何が何でも勝つという考え方を子ども達に教えるはいけないとある。

子ども達にゲームの面白さと楽しさを味わわせつつ、技術向上を図っていき、広く普及発展させていく。ゲームを通して、健全な心身の育成に努める。

特に心的条件として育てる内容

- ・ チームのために少々の自己犠牲をはらっても頑張るという犠牲的精神
- ・ 規律、規則、秩序を全員で守る意味とその価値観
- ・ チームメイトのことを思いやる心や協調性
- ・ 挨拶や礼儀
- ・ ある程度の我慢や忍耐
- ・ 会場等、公共施設の使い方、マナー
- ・ 道具を大切にすると他人に迷惑をかけない道徳心
- ・ 自己管理能力
- ・ 大会参加チーム（特にゲームの相手チーム）の選手は、すべて自分たちの素晴らしい仲間であるという認識

2. **ミニバスケットボールは、中学生以上が行うバスケットボールの下請的スポーツではない。**

身体育成の段階に応じて、子ども達の楽しみを損なわないように工夫しながら、ゲームを楽しませつつ、技術の向上を図っていく。子どもの持つ現段階での能力以上のものを強要することは、将来の正常な発達を阻害することになる。
3. **必勝を掲げて、勝つことだけを狙う指導を繰り返すことは、正常な普及、発展の姿や進路ではない。**

指導者は勝ちたいがために、子ども達に過剰な条件や負担を強要した指導があってはならない。
4. **指導者自身の正しい認識と、自分の人間性の学習を再点検し、常に正常な常識の認識に立って、子どもの指導にあたる。**

指導者はミニバスケットボール連盟組織の構成の一員であって、連帯性を有し組織的活動と共同研修を積んでいくこと。

自己的な理由で組織活動を離れ、固有のミニバスケットボール活動をすることを認めてはならない。

連盟の会議や活動を無視し、独自の活動を行うことは絶対に避けるべきである。
5. **指導者は常に子ども達に対して、教育的立場、条件を心して、個々の子どもに分かり易く、丁寧に優しく指導する。**

上記指導が子ども達に受け入れられない場合は、指導者自身が子どもから信頼されてないと判断し、反省・改善を考えるべきである。

うまくできない子どもを罰するのではなく、自信と勇気を起こさせ、未熟だから頑張ろうとする精神を育てていくことが、指導者の課題である。
6. **暴力行為、暴力的言動で指導することはナンセンスであり、指導者として決して行ってはならない。**

ミニバスケットボールの指導者は、教育者としての自覚を持ち、品格ある人間形成を目指すこと。大会等のゲーム中であれば、審判員は直ちにベンチから退席させ、コート周辺の周辺や観客席に留まることを許さない毅然とした処置が必要である。
7. **指導者同士も丁寧な言葉遣いで、相互尊重、敬愛の精神を貫く。**

相互にコーチとしての、共存価値を認め合う中で、先輩は後輩に優しく助言、指導、援助を行い、温かい人間味豊かな連盟組織として、育てていくことを考える。
8. **保護者、応援団の対応として。**
 - ・ 保護者へのミニバスケットボールに対する理解と認識、啓発活動を勧める。
 - ・ 常に保護者と十分な話し合い、協議をもって必要な支援を仰ぐ。
 - ・ 保護者に連盟で決定していること以外に、必要以上の負担を強要することは厳に慎むべきである。
 - ・ 保護者は、勝ちたいという理由で無理で過剰な練習、過度の経費負担に直結させてはいけない。
 - ・ 大会等での保護者の応援の在り方についても、十分コーチと話し合い、マナーを重んじるように具体的に指示、伝達しておく必要がある。
 - ・ 観客席、応援席から、ベンチコーチの発言を超えての発言は厳に慎むこと。また、応援席ジャッジも絶対に行ってはならない。

- ・ チームの責任者、役員は、大会等でのマナーやルールを子ども、応援者に徹底させること。

9. 指導者は、ミニバスケットボールのコーチであろうとするならば、自己の子どもに対する教育的信念、考え方、育て方が現在の社会に通用するかどうか、再認識してみる必要がある。

より多くの連盟の同僚コーチや保護者に歓迎され、認められる対応をしているかどうか、自己反省、自己再認識をしてみよう。

ミニバスケットボールは社会体育と位置づけ活動している。従って、コーチの勝手気ままな判断で、どんな手段、手法を取って指導しようと勝手であるという考え方は、重大な問題であり、許される方法ではない。

10. 子どもは、ミニバスケットボールをやりたいから入部してきている。

子どもや保護者が興味を持ち、理念や活動に賛同して活動させたいと望んで参加してきている。その要望にミニバスケットボール連盟の規定や約束に従って適正に、応えるべきが指導者である。教育的立場での健全な指導、育成が自分にできない、暴力や暴言に依存しないと子ども達に言い聞かせられないという指導者は、直ちに指導者から自己の意志で辞任すべきである。

子どもには絶対に罪はないし負わせるべきではない。

コーチは、自分の指導したことが一度で身につくと思ってはならない。暴力や暴言で是正させようとする事自体、思い上がりであり、それ自体が重大なミスである。

11. 子どもの人格を否定する暴言は心が傷つき壊れる。

仮に技能の向上が認められるようになったとしても、取り返しのつかない心の持ち主に育っていく可能性がある。

これらは、教育ではない。それでも平然とミニバスケットボールのコーチを続けていくのか？

12. 絶対容認できない暴力行為。

チーム内の特定の子どもの保護者が「自分の子どもはどんなに厳しくされてもよい、言うことをきかなければ殴ってもよいから、鍛えてください。」と言われても、コーチの子どもであっても容認されるものではなく、社会的制裁は絶対免れない。当然、社会的制裁を受けるべきコーチの過去の指導実績を評価して、その行為を容認カバーしようとする行為は、子どもの受けた犠牲に目をつぶるという点で、絶対許されない。

ミニバスケットボールの組織に対しての不信感は、社会的にも企業からも指示を得ることは難しく、子どもを参加させることにも保護者達が二の足を踏み、普及にならない。

13. 指導者講習会の取り組み。

過去、講習会は技術向上を求めた指導者講習会であったため、大会等での勝利至上主義に直結するような指導に傾いてきた。普及がいつの間にか強化に変わった。

全国各地で報告される一部の指導者による暴力行為、不祥事は少子化の影響ばかりか、参加する者に不信感を募らせ、普及活動を阻害し暗い将来となる。これからの課題は、技術講習と合わせ指導者の資質向上に向けた講習会のありかたである。